

これまでの市民検討会の議論について（第1回～第3回）



第1回市民検討会

淵野辺のお気に入りポイント

まちの環境

- ・のんびりで静かな**住環境**
- ・地形が平らで活動しやすく、北口の商業、南口の住宅で**特色が分かれています。**

公共施設

- ・公共施設やJAXAなどの**文教施設が揃っている。**
- ・図書館や本屋などが揃っている環境が良い。

公園・緑

- ・駅近くの**鹿沼公園**は、桜などの自然豊かな環境、児童交通公園、SLなど**魅力が豊富**

買い物

- ・飲食店やカフェ、スーパーやコンビニ等必要なものが揃う**便利な環境**

子育て

- ・子育て施設が充実し、**子育てがしやすい。**
- ・保育園や病院など様々な支援が揃っている。

大学

- ・学生が多く若者が**元気、若いイメージ**の街

住みよい住環境や買い物・公共施設もある便利な環境、鹿沼公園を中心とした自然、若者や子育てしやすい環境などの魅力を持つ今のまちに愛着を持っている。

第2回市民検討会

まち歩きで気づいたこと

良い点

まちの環境

- ・ゆったりとし、**居心地がいい。**
- ・駅を中心に人や施設が集まっている。

公園・緑

- ・公園に**自然が多く、居心地が良い。**

公共施設

- ・施設が駅に近く、**利用者が多い。**
- ・運営に様々な努力が感じられた。

気になった点

公共施設

- ・建物の**老朽化が目立ち、安全性や時代の変化に合っていない。**
- ・駐輪場など不正利用が目立つ。

公園・緑

- ・砂利道が多いことや自転車の走行などが**危険**

まち歩きにより、施設が老朽化している事、時代の変化等に合っていない事が分かった。利用者の意見も聞き、残すもの変えるものがあるのではないか。

第3回市民検討会

施設の運営で気づいたこと

まちの環境

- ・**良い文化を残しつつ**、地域づくりが重要
- ・外国の方が増えている。

図書館

公民館

- ・キャパシティが小さく、**読書・PC・飲食できるスペース**があっても良いのでは。
- ・子どもにもっと利用してほしい。
- ・音楽が出来るスペース

施設運営

- ・利用率が高いため、**効率的、柔軟な使い方、有料化も検討。**

新たなニーズへの対応

- ・**良いものを残して、悪いものを更新していく。**
- ・**時代のニーズに合わせる。**

公園

- ・現状に満足しつつも、さらに**質の向上**や芝生広場等を、設置し**魅力を向上**させたい。

連携・複合化・集約化

- ・施設を連携させたり、**ひとつのつながりがポイント**。もっと**効率的な使い方**などが出来ないか。

淵野辺のまちが持つ良い点・魅力を向上させるとともに、さらに施設運営や時代のニーズにあった更新・改善など、次世代に引き継ぐアイデアがあるのではないか。

これまでの市民検討会の議論について（第4回～第5回）



第4回市民検討会

3つのWGの視点で、気になったこと

まちづくり

- ・ 公共施設や商業施設が揃っており、駐輪場や公共の交通手段があり利便性がある。
- ・ 静かな環境で、駅近くには公園などの自然がある一方、交通マナーや防災、防犯の観点では課題があるのでは。
- ・ 外国人増などの社会的要因も含めて考える必要がある。

公共施設

- ・ 駅に近く、よく利用されている。
- ・ 施設全体では貸室の数があるものの、利用率が高い施設とそうでない施設があるため、施設間連携や使い方を工夫することで改善ができるのでは。
- ・ コミュニティのよりどころになっていない。

公園

- ・ 季節感を感じられる景観、交通ルールを学べ、子供と遊べる憩いの場になっている。
- ・ 見通しが悪く、池の汚濁や設備が古くなっていることから景観や防犯面から考えると課題
- ・ 新たな施設（運動施設、休憩施設、カフェなど）があれば魅力が増し、良い効果が生まれるのでは。

3つの視点で、確認する事でそれぞれ良い点等を深掘りすることが出来た。

山本副会長の講演を踏まえて、次回の検討会では次世代を見据えた課題解決のアイデアを考えることが必要

第5回市民検討会

前回抽出した課題に対するアイデア出し

まちづくり

- ・ まち全体として、商業・住宅は今のままを維持し、交通は改善したい。
- ・ 今後の高齢化を見据えて、コミュニティバスの無料化や基盤整備が必要
- ・ 北口と南口をつなぐ道路が必要など北口と南口のネットワークを強化する。
- ・ 公共施設が抱える老朽化などの直近の問題を解決すべき。
- ・ 駐輪場、駐車場を有料化し、適正利用を促す。
- ・ ナイトウオークや防災訓練など安全・安心の取組が必要

公共施設

- ・ 利用目的にあった空間の設置や時間を確保できる仕組みなどハード・ソフト整備が必要
- ・ 子どもから大人まで交流できるスペース、カフェなど今はない機能を新たに設置し、気持ちよく過ごせるようにしたい。
- ・ 施設や設備が老朽化しており、フロアも狭い。複合化することで有効面積を拡大、維持管理費なども改善するほか、楽しい要素も見いだせるのでは。
- ・ 財政の問題もあり、何が大切か。他市では有料ラウンジなどが人気なので稼ぐ仕組みも必要ではないか。

公園

- ・ 交通公園は形を変えたとしても残す。また、児童館を公園の中に設置することで、子育て、教育環境が向上するのでは。
- ・ SLやでいらぼっち伝説は公園のシンボルとして文化を伝えたい。
- ・ 野球場を多目的に利用できるようにして、健康・レクリエーションの空間にする。
- ・ 防災の拠点として、オープンスペースや人が集うコミュニティ施設を整備

今後の高齢社会や財政の問題なども視点に入れた解決のアイデアが出てきた。今後の進め方に対する意見もあり、方向性を再確認をした上で議論を前に進めたい。

次のページではこれまで市民検討会で議論したことを、有識者委員から意見を頂きながら「次世代に引き継ぐまち」の方向性のイメージとして事務局がまとめました。あくまで「たたき台」としてご確認ください。



これまでの議論で見えてきた次世代に引き継ぐ淵野辺



まちの環境

- ・のんびり、静かな住環境で居心地がいい環境を維持する。
- ・地形が平らで活動しやすく、北口、南口で特色が分かれている。
- ・駅を中心に人や施設が集まっている。
- ・良い文化を残しつつ、地域づくりが重要
- ・外国の方が増えている。

買い物

- ・飲食店やカフェ、スーパーやコンビニ等必要なものが揃う便利な環境

交通

- ・高齢化を見据えて、コミュニティバス、基盤整備などが必要

- ・砂利道が多いことや自転車の走行などが危険
- ・現状に満足しつつも、さらに質の向上や芝生広場等を設置して魅力を向上させたい。

公園・緑

- ・駅近くの鹿沼公園は、桜などの自然豊かな環境、児童交通公園、SLなど魅力が豊富。
- ・公園に自然が多く、居心地が良い。

北口と南口のネットワーク

- ・北口と南口の特徴、ネットワークの向上
- ・子育て施設が充実し、子育てがしやすい。

大学

子育て

- ・学生が多く若者が元気、若いイメージの街
- ・保育園や病院など様々な施設が揃っている。

- ・公共施設やJAXAなどの文教施設が揃っている。
- ・図書館や本屋などが揃っている環境が良い
- ・施設が駅に近く、利用者が多い。
- ・運営に様々な努力が感じられた。

公共施設・生活施設

- ・建物の老朽化が目立ち、安全性や時代の変化に合っていない。
- ・駐輪場など不正利用が目立つ。
- ・利用率が高いため、効率的、柔軟な使い方、有料化も検討すべき

新たなニーズへの対応

- ・良いものを残し、悪いものを更新してこれからの時代のニーズに合わせる

連携・複合化・集約化

- ・施設を連携させたり、人とのつながりをポイントに効率的な使い方などが出来ないか

これまでの市民検討会の議論で、居心地がよい住環境、公共施設が集まる利便性の高さ、桜などの自然、児童交通公園、SLなどの魅力を有する鹿沼公園など、現在の淵野辺のまちに**高い愛着**を持っていることが分かった。

一方で、公共施設などが老朽化していることから、将来を見据えた施設の在り方や公園の魅力をさらに向上させるなど、**良いものを残しつつ、悪いものを更新する。これからの時代のニーズに合わせる必要がある**と認識している事が分かった。

今後の市民検討会の進め方（たたき台）について



市民検討委員アンケートでは、今後の検討を進める上で淵野辺全体のまちの方向性を固めた上で検討したいという意見や、検討会の共通の認識である施設の老朽化について検討をしたいという意見が見受けられた。

また、市民検討委員のアイデアに対し、それが実現可能なのか、他市の事例も含め、市から情報をもっと提供してほしいとの意見も寄せられている。

これらを踏まえ、今後の進め方のたたき台として

これまでの市民検討会の議論で見えてきた「次世代に引き継ぐ淵野辺」をベースにオープンハウス、アンケートを実施し、次世代に引き継ぐまちのイメージについて、広く市民意見を聴取し、今後の淵野辺の方向性を確認してはどうか。

他市の事例や本市の諸計画、今後本市が直面する人口減少、超高齢社会を迎えるにあたり、必要な全市的な情報を改めて確認し、それらも踏まえ、淵野辺ですべきことの議論を実施する。

基本計画案の検討過程において、市が検討したパターンとその前提となった条件等を提示し、実態の共通認識を図る。

「市民が主体となったまちづくり」を行うためには、市民検討会だけでなく、施設関連団体や地域団体と協力するなどソフトのまちづくりを広げていくことが重要である。

次世代に引き継ぐ検討を行う中で出された課題や解決策を様々な視点から分析し、「まちづくりの輪」を広げることもテーマのひとつとしたい。

市民検討会の立ち上げまでの経緯について



検討会立ち上げの経緯について

- ・平成20年「大野北地域 まちづくり提言」から長年、地域より公共施設の老朽化や今後の高齢社会への対応、憩いの場として親しまれている鹿沼公園の老朽化対策、他の地域にない特徴を生かした公園にすべきとの要望があった。
- ・これらの課題を解決するために、市では平成29年に「淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）」を提示し、352人・914件のパブリックコメントが寄せられた。
- ・基本計画（案）は広く意見を聞いたとは思えない、有識者や市民と一緒に計画を作ってほしい、検討経過を公開してほしいとの声を受け、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会・有識者協議会」を設置。

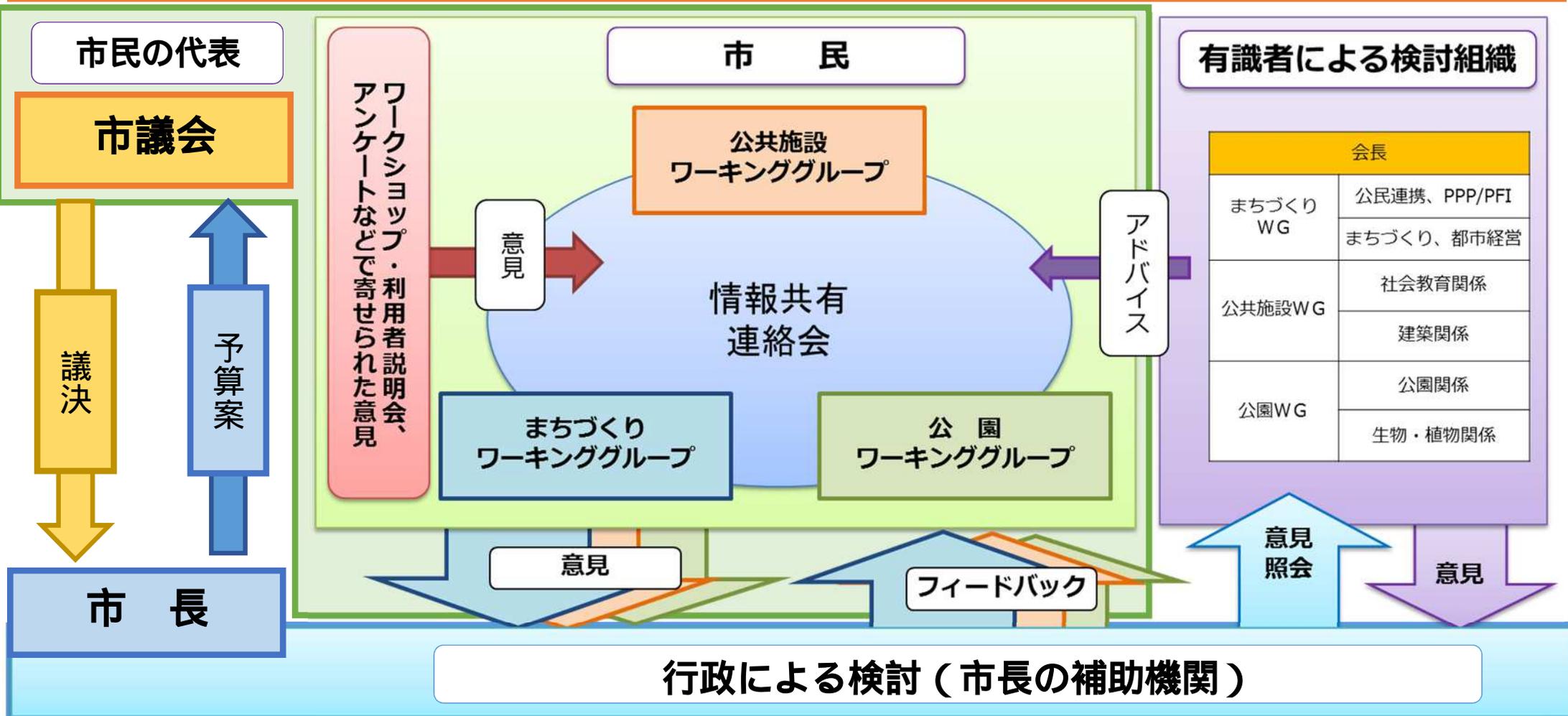
検討会立ち上げまでの検討組織の在り方に対する市民意見について

- ・検討組織の立ち上げまでには、市民説明会のほか、個別の説明会などを通じて意見を聴取してきたところ。本年1月の市民説明会では「市民検討会がガス抜きにならないか、意見が必ず反映される法的な根拠はあるのか」といった質問があった。
- ・市は「審議会などの組織ではないため、ここで決まったものが即必ず政策に反映されるものではない。仮に、そのような組織にすると、有識者と同様にエビデンスに基づいた発言をして頂くなど自由な議論や忌憚のない意見を出すのが難しい環境になってしまう。委員の皆さんにそこまで責任を背負わせて良いのかという点から、議会にも説明し、今回皆さまに説明することにした。」と回答。現在まで、市民から明確に反対する意見は頂いていない。

市民検討会の位置づけと行政との関係性について



市民検討会は、それぞれの分野に関係する方や公募の方の参加の下、自由な意見を出して頂くことを目的に設置。有識者は、市民検討会をサポートし、市からの照会等に専門的な見地から意見を頂戴することとしている。



検討に当たって、市民検討会が重要な役割を担っていると考えているが、有識者協議会からの意見のほか、広く市民意見を聴取し「次世代に引き継ぐまちづくり」について、市長の補助機関である行政がまとめ、市長が決定し、市民や議会に対して説明責任を果たさなければならないものと認識している。

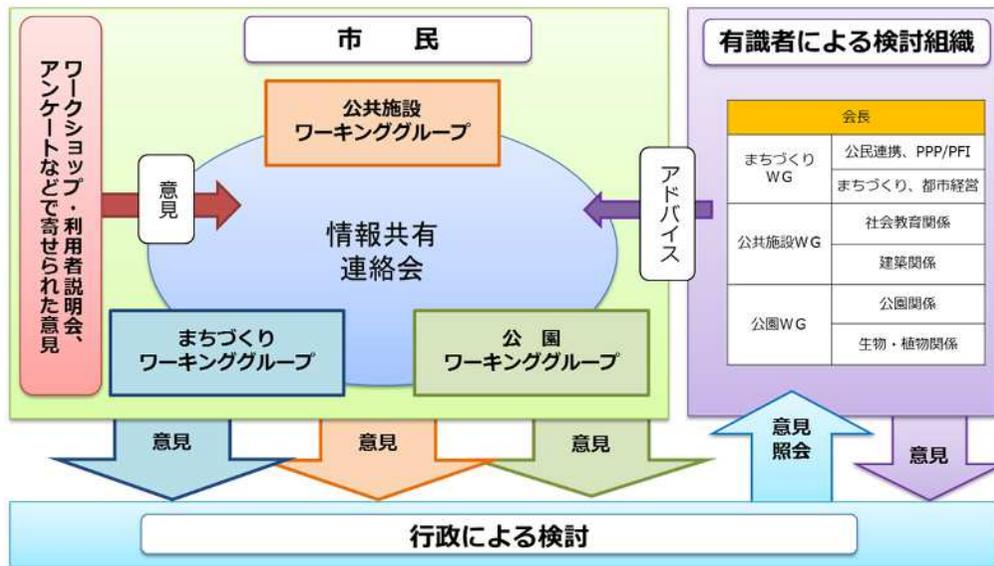
「市民が主体となったまちづくり」について



「市民が主体となったまちづくり」を行うためには、市民検討会だけでなく、施設関連団体や地域団体と協力するなどソフトのまちづくりを広げていくことが重要である。

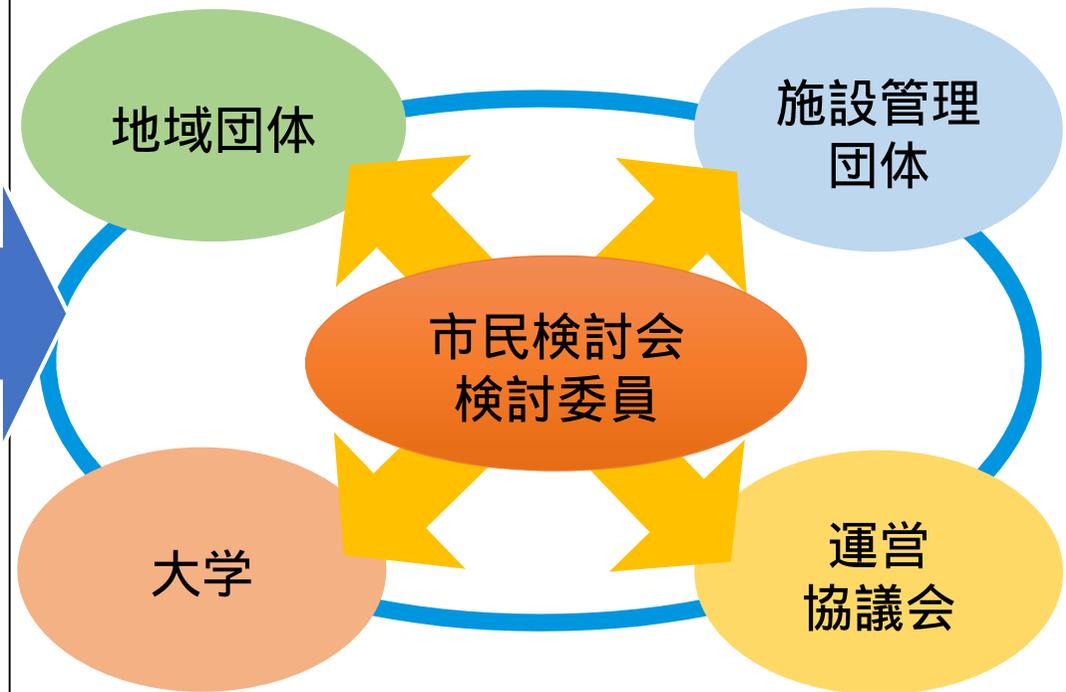
最終的には、市民検討会に属する委員が中心となり、例えば、公園の自然や景観を良くするために、地域団体や公園利用者とゴミ拾いや古くなった柵のペイント、樹木医・SL保存会から教わる鹿沼公園の魅力を楽しむ青空教室などを検討委員自ら企画するなど、「まちづくりの輪」を広げ、「次世代に引き継ぐまち」の原動力になって頂きたい。

地域課題の解決に向けて



次世代に引き継ぐことをテーマに意見を頂く。

市民が主体となったまちづくりに向けて



次世代に引き継ぐ原動力に！